

病防第111号
平成27年11月26日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イネいもち病におけるストロビルリン系殺菌剤（QoI 剤）耐性菌の発生
状況及び防除対策（技術情報第13号）について（送付）

このことについて、ストロビルリン系殺菌剤（QoI 剤）耐性いもち病菌の発生状況を調査し取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

QoI 剤耐性いもち病菌の発生地域は拡大していないが、今後も発生拡大を防ぐため、従来の使用制限と種子消毒を徹底する。

1 発生状況

平成25年に県内で初めてQoI 剤耐性いもち病菌（以下耐性菌）が確認され、県内での耐性菌の広がりを確認するため本年も引き続き調査を実施した。

6～10月に管内72ほ場で採集したいもち病菌について、液体培地による簡易検定法及びPCR-RFLP法により耐性菌の有無について調査を実施した結果、

- 1) 耐性菌は5地域13ほ場で確認され、耐性菌検出割合は18%であった。耐性菌検出割合は年次により異なるが、耐性菌の発生は続いている。
- 2) 過去2年間発生を確認しなかった阿蘇及び天草地域では本年も確認されず、県内での新たな広がりはなかった（表1）。なお、採種ほ及びその周辺ほ場での発生は確認されなかった。

2 防除対策

- (1) 購入種子でも種子消毒を徹底する。
- (2) 耐性菌の発生リスクを低減させるため、QoI 剤の使用は育苗期から本田期を通じて年1回とし、QoI 剤を含有する育苗箱処理剤を使用したほ場では、出穂期前後の穂いもち防除にQoI 剤を使用しない。
- (3) 種子更新にともなう耐性菌のまん延を防ぐため、採種ほ場およびその周辺地域ではQoI 剤を使用しない。
- (4) 本年はいもち病が例年になく多発生したので、多発生したほ場では翌年にQoI 剤を使用しない。
- (5) 耐性菌を確認したことで、急速に防除効果が低下するものではないが、QoI 剤を使用したほ場で防除効果の低下が疑われる場合は、他系統薬剤を選び追加防除を行うとともに、病害虫防除所または関係指導機関に連絡する。

表1 QoI 剤耐性いもち病菌の発生状況

| 地域名 | H26 | | | H27 | | |
|---------|-------|-----|------|-------|-----|------|
| | 採集ほ場数 | 耐性菌 | 感受性菌 | 採集ほ場数 | 耐性菌 | 感受性菌 |
| 熊本 | - | - | - | 8 | 3 | 5 |
| 宇城 | 9 | 3 | 6 | 5 | 0 | 5 |
| 玉名 | 6 | 0 | 6 | 7 | 0 | 7 |
| 鹿本 | 4 | 3 | 1 | 6 | 1 | 5 |
| 菊池 | - | - | - | 7 | 1 | 6 |
| 阿蘇 | 2 | 0 | 2 | 11 | 0 | 11 |
| 上益城 | 7 | 3 | 4 | 11 | 7 | 4 |
| 八代 | 4 | 1 | 3 | 5 | 0 | 5 |
| 芦北 | - | - | - | 4 | 1 | 3 |
| 球磨 | 13 | 3 | 10 | 5 | 0 | 5 |
| 天草 | 4 | 0 | 4 | 3 | 0 | 3 |
| 計 | 49 | 13 | 36 | 72 | 13 | 59 |
| 耐性菌検出割合 | 27% | | | 18% | | |

注)-は、いもち病菌の採集を行っていない。



図1 葉に発生したいもち病斑



図2 穂に発生したいもち病斑
(○の褐変部分)

問い合わせ先
 熊本県病害虫防除所 山口
 (生産環境研究所)
 TEL: 096-248-6490
 FAX: 096-248-6493